



## RubyWorld Conference 2019 開催報告

2019年11月7日(木)、8日(金)、島根県立産業交流会館「くにびきメッセ」(島根県松江市)にて、11回目となる「RubyWorld Conference 2019」を開催しました。主催は、RubyWorld Conference 開催実行委員会(構成機関: Ruby アソシエーション、島根県、松江市、島根大学、松江高専、ジェトロ松江、しまね産業振興財団、島根県情報産業協会、しまねOSS協議会、経済産業省中国経済産業局)、その他、多くの機関の後援、協賛をいただき実施しました。



11回目を迎えた今回の国際会議では、Rubyに関するビジネス利用事例や、最新技術の情報、教育・研究などを紹介する様々なセッションを通じて、より多くの技術領域でのRuby利用、研究に普及していくことを目指し、国内外18名が講演し、来場者数は2日間で延べ1,053名(詳しくは下記を参照)を数えました。

オープニング・セレモニーで、まつもとゆきひろ 実行委員会委員長、丸山達也 島根県知事、松浦正敬 松江市長の挨拶に続き、経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 和泉憲明 企画官に、来賓ご挨拶をいただきました。



引き続き基調講演では、Rubyの開発者まつもと委員長が「How to dominate the world」と題し講演。また、2日目の基調講演では、「The Case Of The Missing Method - A Ruby Mystery Story」と題しThe StoryGraphのNadia Odunayo氏にご講演をいただきました。また、11回目を迎えるRubyWorld Conference開催にあたりGuest Speakerとして、Supership株式会社の山崎大輔氏、Orion Transfer LimitedのSamuel Williams氏にそれぞれご講演をいただきました。



初日の午後は、新たにRubyコミュニティに貢献した方の活動を表彰する、Ruby Prize 2019の表彰式が行われました。その他、国内外のRubyの技術者、企業関係者、教育機関関係者が講演しRubyの更なる普及・発展に向けて活発に議論がなされました。

なお、クロージング・セレモニーでは、井上浩 実行委員会副委員長が、2日間の議論を振り返るとともに、来年のRubyWorld Conferenceの開催意向を表明し、閉幕しました。

- 来場者について 2日間延べ 1,053名(11月7日 613名、11月8日 440名)  
来場実数 622名(県内374名、県外214名、海外34名)
  - ・IT企業関係者 306名(県内114名、県外173名、海外19名)
  - ・その他企業関係者 51名(県内29名、県外22名、海外0名)
  - ・行政関係者 58名(県内50名、県外7名、海外1名)
  - ・研究教育機関関係者 174名(県内165名、県外0名、海外9名)
  - ・一般(所属なし) 15名(県内10名、県外4名、海外1名)
  - ・講演者 18名(県内6名、県外8名、海外4名) ※Ruby Prize 受賞者含む
- 講演者について
  - ・国内14名(企業関係者13名、教育機関関係者1名)
  - ・海外 4名(モンゴル1名、台湾1名、ニュージーランド1名、イギリス1名)

※海外・・・国内在住の外国人を含む